

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390101669		
法人名	有限会社 富永調剤薬局		
事業所名	グループホーム けやき		
所在地	岡山市南区川張1300-1		
自己評価作成日	平成28年3月5日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

前回外部評価実施時にはなかった、訪問看護ステーションとの契約により、医療との連携を緊密にはかる体制が出来ている。介護職員のみでは気づけない変化を見つけ出し、症状が重篤になる前に医療機関への受診を促される事例もあり、これまでのかかりつけ医のみの時とは違い、大変心強いパートナーとなっている。また、訪問薬剤師も、施設のかかりつけ薬剤師というよりも、利用者ごとのかかりつけ薬局、かかりつけ薬剤師といったものになっており、かなり細やかな服薬指導を受けられる状況になっている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku_ip/33/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigvosoCd=3390101669-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階		
訪問調査日	平成28年9月23日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

前回の訪問調査から半年しか経過していないが、色々な取り組みを実施していた。利用者から、ケータリングの食事ではなく手料理が食べたいとの要望があり、毎日ではないが実施している。訪問調査日もカレーを手作りし、利用者と一緒に、玉ねぎ・人参・ジャガイモの下ごしらえを和気あいあいとしていた。おやつも手作りし、利用者から好評である。さらに、なかなか外出支援が出来ていなかったが、近場をドライブしたり、買い物に行ったり、外食に出掛けたりしている。全員で協力しながら経費削減に努め、利用者を支援するために必要な福祉用具を購入してもらっている。杖の支えだけでは転倒の危険がある利用者の為には、歩行器を購入してもらった。利用者の残存能力を信じ、出来る事は出来る限りしてもらい、出来ない部分を手助けする支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所内、玄関ホールに掲示し、全職員がいつでも目にする事が出来、共有している。	理念を玄関や事務所に掲示し、周知を図っている。起床時間や食事は自分のペースで行われ、理念である「ゆっくりでいいよ」が実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の老人クラブに積極的に参加し、また運営推進会議の場で地域との交流を図る為の情報交換を行っている。	町内会に加入はしていないが、祭りの際は協力をしている。毎月、職員が利用者と一緒に川張サロンに参加していた所、参加者から介護に関する質問が多数あり、介護保険等についての講演を行うこととなった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	勉強会、委員会等を設け、そこで学んだことを運営推進会議棟で発表し、地域の方々に理解して頂けるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の現況報告、勉強会、委員会の内容をお伝えし、各参加者からの意見を頂きサービスの向上に努めている。	毎回事業所の取り組みを伝え、参加者から意見を聞き、出た提案はサービス向上に活かしている。地域包括支援センターの職員が毎回広報を持参してくれ、運営に役立てている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に、地区の町内会長、民生委員、地域包括支援センターの方に参加して頂いており、地域を巻き込んでケアへの支援体制をとっている。	書類等の提出時は、郵送ではなく直接市役所の担当窓口を持参し、信頼関係を築いている。行政からも通達等をこまめに連絡してくれ、協力関係が出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会、委員会、研修を設け、また、外部研修を通じ身体拘束についてだけでなく、拘束というものについての知見を深めて、あらゆる拘束をしないケアを実践している。	事業所として、身体拘束をしないケアの実践に努めている。立位が保てない利用者に対し、歩行が危ないからと止めるのではなく、歩ける時に歩いてもらいたいと考えている。この度、転倒防止対策として歩行器を購入してもらった。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修、勉強会、日常のミーティング等で啓発を行い、全職員が虐待について正しい理解をし、虐待が見過ごされない様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修、外部コンサルタント等への相談を含め、権利擁護に関して正しい理解を深められるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には契約内容について詳細に説明させて頂き、理解を十分に得て頂いた上で締結するようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的にアンケートを実施し、日々のご家族の来訪の際にも意見、要望等聞き取る様に心掛けている。また、運営推進会議でも意見交換を行い、要望を施設運営に反映させられるように努めている。	運営推進会議や面会時に、家族からの要望を確認している。利用者からケータリングの食事ではなく、手料理が食べたいと要望があり、毎食ではないが、月に何日かは手料理を提供し、喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に2回のスタッフミーティングだけでなく、思いついた意見や要望は随時伝達してもらう様に周知している。	職員はいつでも管理者に意見や要望を言える体制である。介護もリハビリも人の力だけでは限界がある為、管理者に設備面での改善をお願いし、対応してもらっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	話し合いの場を設け、また個別面談を頻回に行う事で意見や不満の吸い上げを行い、細かな対応を行う事で向上心をもって就業していると思う。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画を作り、職員のスキルアップを図れる体制になっており、研修に対しての支援体制もある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域交流施設交流が出来る機会を設け、お互いのサービス向上に努めたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアプラン作成時にご本人からの要望意見を聞き、当施設での生活が安心して過ごせる様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	当施設で生活をして頂く上での要望を聞き、ケアプランに反映させている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	日々の体調管理を行い、必要に応じてご本人やご家族と相談しながら、随時必要な事を見極めながらケアを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	業務的なケアを見直し、本当の利用者目線とは何かを考えながらケアを行う様にし、利用者との関係を構築している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の小さな変化も伝え、また、帰宅時や昔のことなどの小さな情報も聞き取り、家族と施設とが情報を完全に共有できるようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会制限は設けず、知人の方や地域の方々との交流が出来る様に努めている。	毎週ひ孫を連れて面会に来てくれる利用者もいる。近隣に住む職員の子どもも頻りに遊びに来てくれ、利用者と楽しいひと時を過ごしている。支払いは口座引き落としにしているが、預り金は事業所へ持参してもらい、利用者に会う機会を設けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の日常過ごされるポジション(テーブルでの席の場所)の最適な状態を考え、利用者同士でトラブルなく、仲の良い関係が作れるようにサポートしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時に、相談があれば対応させてもらうことを伝え、良い関係でいられるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本人の思いを最大限に尊重し、自立支援を行っている。	通院時や入浴時を、利用者と二人きりになれる絶好の機会と捉え、利用者の要望を確認している。職員は作業優先ではなく、利用者の意向を踏まえた生活スタイルを支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から情報を得て、その方の過ごしてきた生活や環境を施設内での生活とどう融合していくかを考えてケアを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調の管理に加え、利用者の生活の様子を細かに観察し、『出来る事はして頂く。出来ないことは支援する』ことを徹底している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングやケアカンファレンスを頻回に行い、個人の判断で行うケアではなく、チームケアを心がけている。	介護計画は、半年毎に見直しを行っている。週明けの朝礼後にカンファレンスを行い、更新時の参考にしていく。要望は本人や家族から確認しているが、「事業所にお任せします」と言われれば、思いを汲み取りながら計画を立てている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌や送りノートに記録を詳細に残し、職員が情報を完全に共有できる体制を作っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族から要望・意見を聞き取り、心境の変化などにも柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ひとりひとりの状況にあった地域資源を考え、利用者ごとにあった交流等が出来る様に努めたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病状に応じ、ご本人、ご家族の要望を聞き、かかりつけ医があれば、受診の付き添いを行っている。	入居時に協力医を案内し、かかりつけ医を変更してもらっている。他科受診の際は、職員が付き添っている。以前皮膚に炎症を起こした利用者の治療の為、一日おきに通院し、完治したこともある。利用者の状況に合わせた対応をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションの看護師とは緊密に連携を取っており、利用者の細かな変化を違った観点から発見できるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には速やかに対応が取れるように病院と連絡を密にし、情報交換、共有が取れるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期の対応については、全ての利用者、利用者家族とインフォームドコンセントが取れているとは言えないので、早急な書面、口頭で施設に出来る事、出来ないことを説明したうえで、同意を得る必要がある。	運営推進会議にてターミナルケアについて説明し、参加者以外の家族には、請求書と一緒に看取りについてのアンケートを送付した。家族と本人が希望すれば、事業所で看取りをする意思がある事を伝えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、勉強会を行ったり、日々啓発を行う事によって不測の事態への即応力を身に着けるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行い、また災害対策についての勉強会や研修を設けて災害時に対応できるようにしている。	熊本の震災以後から、始終防災時の対応について職員と話し合いを行っている。避難場所まで距離がある為、近隣になる福祉施設に水害時だけでも避難が出来る様に、協力を依頼したいと考えている。	昨年度に続き、まだ避難訓練を実施していないと聞いた。早めの実施に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を最大限尊重し、尊敬の念を持つと共に、接遇についても自己研鑽や勉強会を行い、クオリティの高いケアを目指している。	利用者が現役だった頃をイメージして対応する事で、自然と一人ひとりを尊重した言葉かけに繋がっている。始終見守りが必要な利用者の居室の扉を開けているが、のれんを使用してプライバシーの確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望や思いを閉じ込めてしまわずに、表出出来る様な雰囲気作り、職員との関係が作れるよう働きかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者各々の意見や希望を聞き、生活習慣にあった時間の使い方が出来る様に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	要望を聞き身だしなみ・おしゃれが出来る様に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事がただ食べる事だけの場所になってしまわない様に、職員も一緒に食事をとるよう心がけ、会話を楽しみながらの食事時間を提供できるようにしている。	今年度から利用者の要望により、一部ではあるが手作り料理やお菓子を開始した。利用者と一緒に下ごしらえを行い、大変好評である。味付けも人それぞれに合わせて、スパイス等を活用している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	脱水に関する勉強会を行い、高齢者にとっての水分摂取の大切さを認識してもらった。そして、ひとりひとりにあった食事量、食事法、水分量、摂取のタイミングなどを考えながらのケアを実践している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを完全実施し、また、食事の際に口腔内の状態観察を行い状況把握している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の能力にあった支援が出来る様に努めている。意思伝達が困難な方には定期的な声掛けを行い、排泄支援を行っている。	利用者のほとんどが「トイレに行きたい」と意思表示をしてくれる為、行きたくないのに無理やり誘導するのではなく、利用者が自ら行きたい時に付き添っている。排泄支援も自ら出来る事はしてもらい、出来ない部分のみを手伝っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い、毎朝の申し送り時に排便状況を詳細に共有している。最近行った事例としては、施設ではこれまで牛乳の飲用を行っていなかったため、試験的に導入したところ、若干の改善が見られた。今後は本格導入を検討中。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現在は施設の都合で入浴時間や曜日を決めているが、業務との兼ね合いで希望に沿える部分は叶えられるようにしていきたい。	一人当たりの入浴時間をゆったりと取り、利用者の希望に沿った支援に努めている。湯船に浸かることを嫌がる利用者には、シャワー浴と掛け湯を行い、風邪をひかないように配慮している。毎夜清拭のみを希望する利用者にも、対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人ごとの生活習慣を尊重し、気持ちよく休息がとれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	母体が調剤薬局であり、個人ごとにかかりつけ薬局、かかりつけ薬剤師を設定しているので、服薬管理、服薬支援についてはほぼ完璧に行えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ひとりひとりに合った楽しみ、役割を見つけ、日々の生活が単調になってしまわない様に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	イベントを企画し、体調を考慮しながらではあるが、外出を楽しんでいただいている。また、日々の買い物等にも、同行可能な利用者には同行してもらい、社会と隔絶してしまわないようにしている。	天候が良く、人員体制が充実していれば、近回りではあるがドライブに出掛けている。炎天下に室外で過ごすより、室内で好きな料理を食べた方が利用者も喜ぶと考え、外食にも出掛けている。今回夏祭りに利用者と一緒に出掛け、屋台を楽しんだ。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則的に金銭管理は事務所で一元管理している。しかし、外出等の際には自分のお金を自由に使うことを楽しんでもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の意思を尊重し、電話・手紙の制限は設けず、その都度要望があれば行えるよう努めています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が快適に過ごせる様に、温度管理を行っている。電灯を明るすぎない、温もりのあるものを取り入れている。また、外光を取り入れるように天窓をつけ、自然光も使っている。	夏場は天窓に布を覆い、直接光を遮り、室内温度の管理をしている。テレビに近い位置にテーブルを配置し、テレビの音が聞き取りやすくしている。テレビから離れたテーブルでは、二人組みが向かい合わせでお喋りを楽しんでいった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中で、外や中庭を眺められるような場所に小さい机、椅子を設置し、一人になりたいとき、少人数で会話を楽しみたいときに使用できる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前にご本人やご家族と相談し、使い慣れたものや好みのものがあれば入所時に持参頂く様お願いし、入所後に快適に過ごして頂けるようにしている。	使い慣れた家具や写真を持参してもらい、家庭的な雰囲気に少しでも近づくよう工夫している。以前お茶の先生をしていた利用者には、お茶の道具を自宅から持って来てもらい、お茶を点でて他の利用者に振舞ってもらったこともある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	特別なものは置かず、一般的な家具を使用している。ただし現在使用している椅子は左右方向への転倒のリスクが高く危険なため、肘付椅子の設置を決定した。また、立ち上がり時の支持も確実に行える。現在納品待ち。		